



## 目 次

年初のごあいさつ 会長 小西菊文 P2

今回はスリランカ教育支援を考えます

輝く 4000 の瞳 奨学生認証式 P 3  
グラフでみる支援金の使い方 P 4  
気持ちひとつに！合同役員会 P 5  
学校交流プログラムはじまる P 6  
会員からの、うれしいお便り P 7  
里親新聞「こんにちは」の発行 P 8  
里親新聞に掲載した記事を紹介 P 9  
質問箱『AL 支援を終えるときは？』 P10

里親いない里子たちを全体で支援している状況です。  
現地教師たちのボランティア努力をもっと理解し、  
ひとりが1人に、活動参加の呼びかけをお願いします。

### 2003 年初の会状況

スリランカ	教育里子数	1,596 名
	教育里親数	1,002 名
インドネシア	教育里子数	569 名
	教育里親数	358 名
C.P.I.	賛助会員数	139 名



## ごあいさつ

特定非営利活動法人（NPO 法人）  
C.P.I.教育文化交流推進委員会  
会長 小西 菊文

＜教育里親活動に参加あるいはご支援くださっている皆様に、感謝を申し上げます＞

こんにちは。日本はまだ寒いので、南の国に早く行きたいものです。なんと言っても里子たちと話しているのがいちばんの元気のもとですから。ところで、私は、C.P.I.を支えてくださる会員の皆様や、関わりをもった現地の人々に喜んでいただくことを私の使命と決めて、15年間をすごしてきました。そのような心がまえに至ったエピソードのひとつを、お話ししてみます。

およそ16年前、教育里親運動の準備で苦勞していた頃、以前から親しくしていただいていた京都・鞍馬寺の信楽香仁管長さんからご自身の苦難時代のおはなしを聞かせていただいたことがあります。牛若丸の昔から有名な鞍馬の山に住まれ、穏やかで悠然とした管長さんですが、そこに至るまでは嵐のような人生をくぐってこられた人物であることが解りました。

そのとき管長さんが私に言われた言葉は、いまでもおもいで深いものです。

「人の生のなかで99%は苦難ですよ。残り1%を、あなたと関わりを持たれた方々の『気』に喜ばれるものとするので、それをご自分の人生の満足としたらいいのです。それから、あなた自身がこれを実現できれば幸いだと思われていることを『気がかり』と呼ぶのです。それを次の世代の人々に受け継いでいただければ、あなたは人生をまっとうできますよ」と。そのお話でそのときの迷いがとれ、前に進むことができました。今でも感謝しております。

＜C.P.I.は、これまでに約7億円の教育支援をしてきました。現地の地域センターは  
スリランカ全国で101ヶ所 これまでの教育里子は4951名、  
インドネシア・ジャワ島で37ヶ所 同じく3913名におよんでいます。＞

ところで、私たちは奨学システムの若木を育て、卒業者から社会リーダーが出始めました。まだ、できることはそんなに多くないかもしれませんが、卒業者はスリランカで3,300名以上、インドネシアで約4,000名います。将来の活動の実はもっと喜べるものになると思います。ですから、この樹を枯らすことなく次の世代に引き継いでいかなければなりません。里子の卒業者が次々と社会で活躍し日本の若い世代と協力しあう姿を描いて、活動をつづけましょう。

ホームページをまったく新しくしました。 <http://www.cpi-mate.gr.jp/>

Mail 自由討論グループは会員なら登録無料。申込みは牟田さん [muta@ktarn.or.jp](mailto:muta@ktarn.or.jp)

# かがやく 4000 の瞳

2003 年度スリランカで奨学生認証式 盛大に開催

1月16日スリランカの首都コッテにある、C.P.I.のパートナー団体 SNECC 本部で、第17回奨学生認証式が行われた。

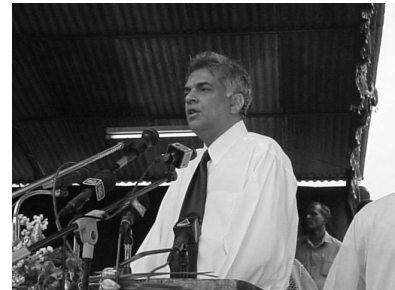
101ヶ所の地区センターが用意したバスが本部前『日本通り』を埋め尽くし、2,000人の奨学生とその家族が集まってきた。

ラニール・ウィクラマシハ首相、商工大臣、外務副大臣など政府閣僚や、名僧で知られるソービタ大僧正が列席され、C.P.I.と SNECC との協力活動と功績に謝辞をいただいた。

C.P.I.里子 1,760人（4月のAL受験2回目の学生を含む）や大学奨学者（ULEF\*支援に切替え）など2,000人余の子どもたちの顔は喜びに満ち溢れていた。

今年 SNECC は、内紛の最中には最も戦闘が激しかったジャフナ地区の特別奨学生を設けた。ULEF で支援することになったが、その中にタミール民族の子どもたちも150人ほどいた。その場の屈託ない彼らの笑顔を見ながら、「日常生活でも、早く内紛の残像が消えてくれるよう」願わずにはいられなかった。（註：ULEF：C.P.I.会員 薄井一美氏設置 C.P.I.の関連基金で、大学・専門学校進学者、特別地域の OL 学生等を支援している）

スリランカでの政府-LTTE 間の停戦は一年以上となり、終戦合意と復興が先進国の仲介と支援により始まろうとしている。本年6/15,16に東京で、支援国会議が開かれることも決まった。19年間続いた内戦が終わる日を確信して、国民は一様に安堵。奨学品を抱えて帰る里子たちが、次々と自立し社会の向上に活躍する日がますます楽しみとなった。



里子たちに訓示するラニール首相



里子たちにバッグを渡す藤庭副会長



バッグを背負い帰路につく里子たち



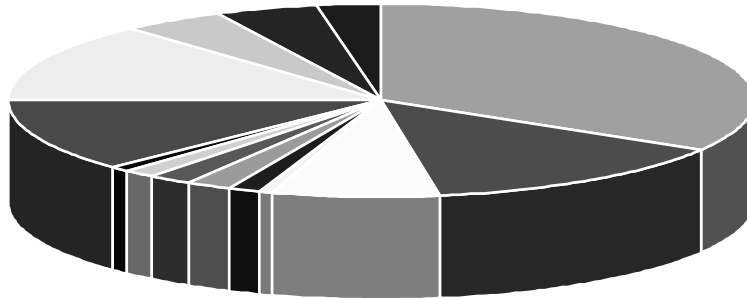
挨拶する小西会長と列席した5人の大臣

希望に満ち、熱気に包まれた認証式会場 C.P.I.からは会長のほか役員5名が出席し祝辞を述べた。

➡ P5 に関連記事



## スリランカでの教育支援金の使い方



- 学用品 33.70%
- 補習費 13.70%
- バス代 7.37%
- 学校施設費
- 希望図書代
- 保健・緊急援助
- 日本語クラス
- AL特待生下宿
- 実務学習援助
- 地域センター費 12.23%
- 本部センター費 13.50%
- 運営管理費 4.40%
- 事務局長費 4.28%
- 単年度剰余金

認証式で渡す学用品（OL 課程と AL 課程では、ノートの種類・制服や靴のサイズが違う）



＜OL 課程の学用品＞



＜AL 課程の学用品＞

奨学生認証式に出席した C.P.I. 役員 6 名は、参画のしかたを皆で話し合った結果、壇上に並んでそれぞれ一言祝辞を述べた。

「私たちの活動は、多くのスリランカ人と日本人のパートナーシップがとても大切です(推名)。」

「今後は、子どもたちや先生同士が互いによく知るために、学校間の交流も進めましょう。(鈴木)」

「日本政府とスリランカ政府は、公益のためにもっと応援してくれることでしょう(小須田)」

「卒業した奨学生たちも、活動に協力を惜しまないでください(山川)」

「皆さんスリランカで能力を発揮してください。それは私たちに、勇気と喜びをくれます(藤庭)」

「そうです。日本人は、スリランカの子どもたちから元気をもらっています(小西)」

このスピーチは、ひとりで話すこともできますが、様々な人によって、いろいろの言い方で話すことによって、一言ひとことの意味をきちんと伝えることができたと思う。

けっこう好評であった。





# 学校交流プログラムはじまる

ようやく地に足がついてきた日本の教育協力ですが、これからが地固めのとき。C.P.I. は目的である「困窮する民衆の人間環境改善」をしていくうえで重要な活動として、「相互理解および経験交流」をあげています。よく知りたい、きちんと知らせたい、という気持ちを基本に、

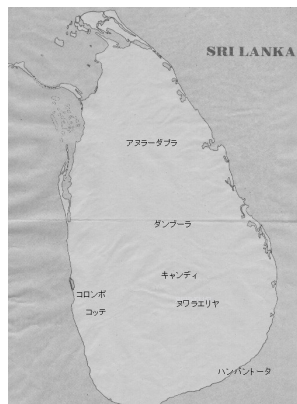
よく考えた協力をしていきたいもの。1999年には40日間演劇キャラバンで“日本の子どもたちに新しい息吹を”と呼びかけ、スリランカやインドネシアの子どもたちと日本の子どもたちとの交流を育てようと試みました。2003年からの学校交流は、この流れに沿ったプログラムです。



学校交流については、上記の趣旨で会長から提案があり、昨年11月9日の評議員会で、事務局次長の山川理事と千葉の鈴木康夫さん（現・地域会代表、東金市校長会の元副会長）に検討をお願いしました。

本年1月の奨学生認証式でスリランカを訪れた山川・鈴木両氏は、14日から25日の間に7つの学校を訪れ、

C.P.I.-SLNECCを通しての交流を前提として方法を話し合いました。今回学校間交流は6件、（コッテ市で2校、キャンディで2校、ヌワラエリヤ1校、ガンポーラ 1校）



教師間交流は3件の事前報告がまとまりました。

## 学校交流でも気をつけたい、こんなこと

個人が参画する国際協力は、ときには問題を引き起こします。たとえば某氏、現地を訪問した折に、受持っている里子を気に入り、すっかりお大尽気分で、「困ったら何でもボクに言いなさい」と数万円をプレゼント。子どもは舞い上がり、友だちや近所に自慢してしまい、白い目で見られる毎日に…。

自立支援の意味を取り違えていますね。

学校交流でも、支援物資を贈るときには、C.P.I.本部を通してよくよく相談をしていただくよう、お願いしています。相談には子どもたちも参加してもらい、ルールをつくっていくことが大事です。

理事会は、2月15日付けで鈴木康夫さんにく学校交流部長を委嘱。活動を開始します。



※ 埼玉県新座市東野小学校の児童が作った『絵とき資料』で説明する山川さん。



※ 鈴木さんと学校長らとの打ち合わせ。



# うれしいお便り

1989年入会会員

## 92歳 野口薫氏、大いに語る

野口薫さんは明治43年11月生まれ、ということは満92歳である。君津市の町並みを少し外れたところに浄土観音堂がある。野口さんはその堂守をされている。25年前に、朽ちたお堂を再興し、小高い山の上に慈母観世音を建立した。この慈母観世音は北村西望作の有名な像である。夏には手製の13mの樋を使った『流しそうめん』が500名以上を集め境内で行われる。

いつも地域会の返信ハガキに「高齢だから参加できない」旨コメントを書いて下さる。是非出かけて行ってお礼をしたいと思っていた。正直のところ、弱々しいご老人を想像していた。しかし、ヨガを熟練し、句を読み、読書をたしなみ、いたってお元気なのである。30年間の教育への功績が認められ5年前に勲五等瑞宝章を叙勲された。

野口さんがC.P.I.に加入されたのは15年前、即ち77歳の時である。

### 里親としての第一歩をだいに

(2002年入会ほやほや 千葉・芝さん)

ふつうの「親」業でさえ放棄したくなること度々だった私が、「里親」とはいえまた子どものことを…なんて考えてもいなかった。昨年5月ある会で鈴木康夫さんからCPIの活動のことをお聞きして、「1日100円の奨学金の援助なら」と単純に思ったのがきっかけだった。私はお寺の子供として育ったので、同じ仏教国のスリランカと少しでも関われたらと思ったのも確かである。とはいってもスリランカについては何も知らなかった。



(奥さんと一緒に話弾む)

「日本はねスリランカと仲良くしなくては」サンフランシスコ講和会議でのスリランカ代表演説への感謝、第二次世界大戦で決死の和平工作を試みた藤村義朗海軍中佐が戦後スリランカにわたりイチゴの栽培を伝承し利益を還元しようとしたことなど話された。

「我が子8人はもう独立したから、里子のデヌーシャ・ペレーラは第9子、ジャヤマンは第10子と思って…」と目を細められた。

「健康の秘訣？ 欲を捨てることかな。腹半分心がけが健康につながる」そうだ。

(対談：鈴木・山川記)

昨年12月8日、千葉地域会“卒業里子は今、報告会&座談会”に鈴木さんに誘われておそろおそろ出かけた。

スリランカの紅茶を飲みながらのアットホームなものだったが、鈴木さんや山川さんの里子訪問や学校教育の現状についての報告は、濃い内容で興味深いものであった。

両氏の撮影した写真に写っている、貧しい教育設備とは対照的な“子供たちの輝く笑顔と瞳”に、心を奪われてしまった。

とりあえず豊かな物資に恵まれている日本にいて、里親としてどれだけスリランカの里子のお嬢さんに理解と共感を寄せることができるか未知数である。まだ何も分かっていないが、ひとまず私の里親としての第一歩が始まった。

# 里親新聞「こんにちは」発行 シンハラ語版

「里親＝里子間の文通がスムーズにいかない」あるいは、「お互いに情報が不足している」との声があります。その不満を少しでもなくしたいということで里親新聞一里子新聞による情報交換を、はじめました。

編集部員を募集したところ、6名の方から応募があり、早速「編集委員会」が結成されました。その手始めとして、まずスリランカ向けの発行に向けて、精力的な活動が始まりました。原稿の依頼、翻訳者探し、デザインの依頼などです。

幸い会員のデザインのプロ、シンハラ語を駆使できる日本人（JICA 海外青年協力隊 OG/OB）、在日スリランカ人・留学生などボランティアの協力者がみつきり作業は急テンポで進みました。里親からの手紙、地域会からの記事、日本の四季など盛りだくさんの記事を掲載しました。誌名は親しみやすく呼びかける「こんにちは」にしました。

## 1/16 認証式で全里子に配布

正月早々に完成した「こんにちは」第1号は、学用品とともに全里子に配られました。1頁目がカラーであることと、シンハラ語で書かれた8ページの新聞に里子たちは大喜び。編集部に代わって小西会長が壇上で新聞の発行を説明しラニール首相にも詳しく説明しました。首相は、「おお、このような試みは初めてだ」と賞賛され、小西会長との様々な話の、いいきっかけともなりました。（写真下）。



まず「里親新聞スリランカ向け」を現地語で発行しよう！ということになりました。

（担当理事：山川洋一氏）



## バスの中でいっせいに読んだ里子たち

認証式の終了した5日後にキャンディで里子に会った。みんなバスの中で読んだという。

「日本のことがよく分かった」「もっと知りたい。今度はいつ発行されるの?」と、熱心だった。

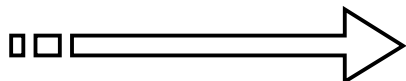
ダンポーラ校のアーナンダ校長は「面白い試みだ、子どもの教育に大変良い。全校の生徒に見せたい」と感心してくれた。

★SNECC では、早速、里子新聞の作成の準備にかかりました。楽しみです。

★インドネシア版の発行にこれから全力を投入します。3月末を目標に進めます。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。（編集委員長 山川洋一）





## 「こんにちは」の中の内容の一部を紹介

「こんにちは」創刊号の P-2 に掲載した“里親からのメッセージ”です。シンハラ語に訳して掲載しました。このページでは、里親の代表の方が、里子たちに向け手紙を書きます。日本のことや家族のこと、励ましなど、書いてもらいます。

### 友情と信頼を大切にしよう

こんにちは。私は東京に住んでいる里親です。家族は主人と息子一人です。

今年の冬はいつもの年より寒さが早くやってきて東京でも12月9日に雪が降りました。これは珍しいことです。いつもの年は1月から2月になってから数回降るくらいです。

私は里親になってから12年になります。

里子は 今、三人目です。二人の里子は立派にOL試験に合格して里子を終了しました。とても嬉しく思っています。本当に勉強したい子供に勉強ができるチャンスをあげることは、世界のためになります。ですから、私のできることは多くはないけれど、少しでも協力したいと思っています。

皆さんは奨学生に選ばれました。勉強ももちろん大切ですが、勉強以外にも自分がやりたい目標をもってやるのが大切です。

推名陽子（東京）



Mrs. Y. Shiina

スポーツや絵などでも、将来の夢をもってください。私は35年同じ会社につとめました。苦勞もありました。でも、好きな仕事なら、あきらめずに勤め続けていくことが大切だと思ったのです。あきらめないことが大事です。それから皆さん、将来社会に役立つ人、他の人にやさしい人になってください。里親も励まされます。皆さんが目標をもっていることがわかるお便りが届くのを楽しみにしています。友情と信頼を持ってこれからも仲良くしていきましょう。



### あなたたちの夢や悩みを教えてください

鈴木 康夫(千葉)

日本では寒い日の続く2月から3月にかけて、高校や大学の入学試験が行われます。中学3年生や高校3年生にとっては、一番大変な時期です。彼らは塾や図書館や自宅などで夜遅くまで勉強しています。努力している理由は、将来への夢を持っているからです。でも彼らは、友達のこと、学校のこと、勉強のことなど、いろいろな悩みを持っています。あなたたちも同じでしょう。

将来への夢や悩みについて、日本の里親さんや生徒たちとも話し合ってみませんか。きっとあなたたちの生き方に役立つと思いますし、里親さん

や日本の生徒たちも喜ぶと思います。

人間は、“他の人のことを考えられる”という素晴らしい能力を持っています。その能力を生かして、あなたたちの力で平和な住みよい国を作ってください。応援します。





質 問 箱

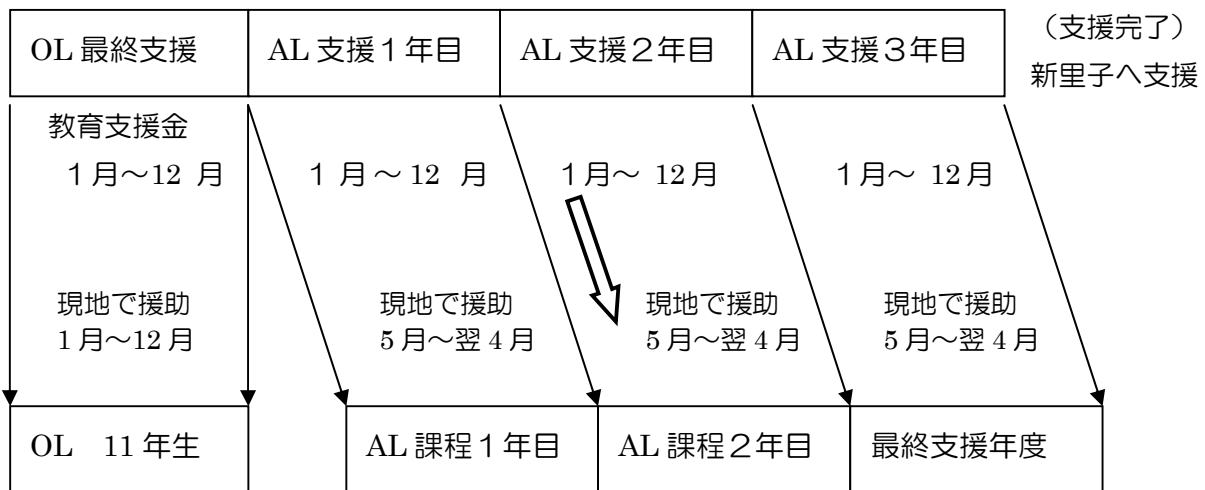
スリランカの教育里子についての質問です。私の里子は、昨年末“AL 試験に落ちたから奨学生を終えさせられた” ののでしょうか？  
新しい里子をもつことには異存ありませんが、  
なんだか割り切れない気持ちです。（茨城・H さんから）

いつも C.P.I.の活動を気にかけてくださって、ありがたく存じます。

お問い合わせの件ですが、誤解されるような報告書体裁になりましたようで、すみませんでした。  
試験に落ちたからではなく、2 回目の AL 課程を終えるので里親からの教育支援は完了するのです。  
ただし、里子は 2 回目の AL 試験を今年 4 月に受験しますから、現地ではそれまで支援を続けます。

- ※ 以前よりも、OL 試験後の進路決定（AL 課程に進む、実務学校に進む、就職する）が早くなりました。OL 試験の結果発表、高等課程(AL)の開始時期が早まり結果待ち期間が短縮されたためです。約 8 割の AL 課程・実務学校に進学した学生の教育支援は、学年開始を待って行います。
- ※ なお、就職などで進学しないときは、受持ち里子を変更させていただいています。
- ※ 下図にあるように、教育支援金が里子に直接使われる期間は、OL と AL では異なります。

＜AL に進んだときに教育里親から支援金を出す期間と、現地での援助期間のずれ＞



※ 十二月に OL 試験を受ける  
受験せず就職する里子  
もいます。

三月まで試験結果待ち

※ 十二年生は 5 月に新学期。  
※ 実務学校へ進むときも、  
1 年間支援します。

AL 課程 2 年目の学生は、  
4 月に初回 AL 試験を受験。  
※ この期間内に 10%ほど学  
業を終える里子がいます。

4 月まで現地では最終援助  
※ AL 試験の再挑戦のため  
※ 大学入学の準備のため  
※ 高等実務学校への援助